

〈史料紹介〉「出雲名物番付」

鳥谷智文

松江市史編纂課で調査された「中倉家文書」のなかに2枚の「見立番付」が発見された。1枚は、弘化2年（1845）作成のもので、もう1枚は、安政5年（1858）作成のものである。2枚とも、縦37センチ、横26センチの大きさに墨書きであった。

松江藩については、「雲陽国益鑑」という「見立番付」がよく知られているが⁽¹⁾、今回発見された2枚の見立番付は、「雲陽国益鑑」とは相違する観点から書き記されたものである。この「見立番付」については、安政2年の見立番付の中央上段に「出雲名物」と記されており、仮に「出雲名物番付」と称しておく。

弘化2年、安政5年の「出雲名物番付」では、勸進元が、「人参」・「木綿」・「鉄」・「蠟」・「牛馬」、東大関が「十六島海苔」、西大関が「松江鱸」となっている。「雲陽国益鑑」では、勸進元が「尾道御廻米」、東大関が「木綿」、西大関が「鉄山鉦」⁽²⁾となっており序列の記載が全く違う。「雲陽国益鑑」は国益となることを基準として番付を定めているが、今回発見された「出雲名物番付」は、最も国益となる「米」が記載されていない。項目をみても、先述した「十六島海苔」、「松江鱸」など、まさに地域の特産物を記載しているように思われる。

例えば、頭取には「御立山焼」、「野白紙」、「布志名焼」、「島根畳表」、「秋鹿畳表」など手工業製品があげられている。地域別にみると、山間部では東前頭一枚目に「吉田香茸」が入り、海浜部では西関脇に「日御碕和布」が記載されている。

興味深いのは、弘化2年の「出雲名物番付」には、もともと書かれていた特産物を消して、新たに紙を貼って安政5年段階の番付に合わせていったようにみとれるところがある。例えば、行事の項目のなかに、安政5年の番付には「来海石」が記載されているが、弘化2年の番付には「松江白魚」がもともと書かれており、その上に新たに紙が貼られ、「来海石」と記載されている。「松江白魚」は安政5年の番付では東小結に記載されているが、弘化2年の番付の東小結は、もともと「大根島牡（カ）丹」が記載されており、その上に新たに紙が貼られ、「松江白魚」と記載されている。

このようにみても、弘化2年段階の番付と安政5年段階の番付とでは若干格付けが相違していることがわかる。

このような相違がどのような基準でおこっているのかについては、今後の課題である。また、それぞれの特産物についての詳細な分析についても課題として残る。しかし、江戸時代の人々が「雲陽国益鑑」とは別の観点、すなわち地域の特産物を中心に番付を作成し、利用していたことは注目に値することではないかと思われる。

注

(1) 乾隆明・下房俊一2010「決定版 見立番付を楽しむ—遊び心と本音が生んだ江戸時代のランキング情報誌—」『松江市ふるさと文庫12』松江市教育委員会、松江市史編集委員会2011『松江市史』史料編5「近世I」松江市など。

(2) 「出雲名物番付」では「鉄」と記されている製品がこれに相当すると考えられる。

(史料の翻刻について)

- ・漢字の字体は、原則として常用漢字を使用した。
- ・史料中の抹消部分は——を重ねて示した。
- ・判読難の文字は□□とした。

(とや ともふみ 松江工業高等専門学校人文科学科教授)



「出雲名物番付」(弘化2年)



「出雲名物番付」(安政5年)

<p>大関 松江鱸</p> <p>関脇 日御碕和布</p> <p>小結 大庭梨子</p> <p>前頭 高浜松露</p> <p>前頭 秋鹿牛房</p> <p>前頭 民谷蕎麦</p> <p>前頭 乙立桜鯉</p>	<p>前頭 不老山茶</p> <p>同 宇竜洗海苔</p> <p>同 三瓶山葵</p> <p>同 猿政山葵</p> <p>同 岩屋寺松</p> <p>同 八代多葉粉</p> <p>同 砂子原タバコ</p> <p>同 杵築河豚</p>	<p>同 大根島牡丹</p> <p>同 キツキノハマグリ</p> <p>同 サキヤ茄子</p> <p>同 竜頭滝モ、</p> <p>同 神在鮒</p> <p>同 渡橋茶</p> <p>同 所原石</p> <p>同 生馬石</p> <p>同 久多見石</p> <p>同 片句ノリ</p> <p>同 平田揚豆腐</p> <p>同 乙立川アイ</p> <p>同 三刀ヤ川アイ</p> <p>同 野白砂</p> <p>同 熊野茶</p>	<p>同 鼻ソグ大コン</p> <p>同 出西石</p> <p>同 大東茶</p> <p>同 安来ウンドン</p> <p>同 刈畑雲龍石</p> <p>同 鷺奈倉石</p> <p>同 朝酌五平太</p> <p>同 大海碕赤貝</p> <p>同 馬瀉白髪海老</p> <p>同 持田ウリ</p> <p>同 伊野浦神葉</p> <p>同 田儀川ギン</p> <p>同 鶴峠ボラ</p> <p>同 多久アメ</p> <p>同 今市キセル</p> <p>同 氷室カド石</p>	<p>同 木次上下地</p> <p>同 蛇池サラシ</p> <p>同 小原鯉</p> <p>同 関目差イハシ</p> <p>同 庄原シヤク</p> <p>同 大野柿</p> <p>同 魚瀬荒布</p> <p>同 畑浦海そうめん</p> <p>同 箱淵芋</p> <p>同 今市実クリ</p> <p>同 馬木ミノ</p> <p>同 三代ヤキノ</p> <p>同 上講武藤布</p> <p>同 大芦葛芋</p> <p>同 武代枇杷</p> <p>同 本郷トマ</p>	<p>出雲名物</p>	<p>前頭 古浦塩</p> <p>同 海雲一十神海苔</p> <p>同 出西生姜</p> <p>同 大垣独活</p> <p>同 揖屋ウナギ</p> <p>同 上郷タバコ</p> <p>同 妙見モ、</p> <p>同 八川ワラビ</p>	<p>同 平田ウムドン</p> <p>同 関小鯛</p> <p>同 槻屋紙</p> <p>同 亀嵩ソロバン</p> <p>同 黒浜石</p> <p>同 松江アマサギ</p> <p>同 中邑タバコ</p> <p>同 穴道ウナギ</p> <p>同 本庄海老</p> <p>同 猪目石</p> <p>同 トノ屋豆腐</p> <p>同 三刀屋アイ</p> <p>同 熊川アイ</p> <p>同 荒島砂</p> <p>同 同</p>	<p>同 津田大コン</p> <p>同 吉田トイシ</p> <p>同 二部五平太</p> <p>同 伊東ハマクリ</p> <p>同 古浦スナミ</p> <p>同 市成シバミ</p> <p>同 竹矢西瓜</p> <p>同 講武西瓜</p> <p>同 加賀和布</p> <p>同 本庄雲蝸</p> <p>同 熊野炭</p> <p>同 佐草荒土</p> <p>同 野白ホタル</p> <p>同 アイカ瓦</p> <p>同 カケ合芋</p> <p>同 木次墨</p> <p>同 ヒシ四方石</p> <p>同 上川ツ琉球芋</p>	<p>勸 人 木綿</p> <p>進 鉄 蠟</p> <p>元 牛馬</p>	<p>同 平松木綿</p> <p>同 大草サラシ</p> <p>同 大東フグイ</p> <p>同 赤川コノシロ</p> <p>同 揖屋コノシロ</p> <p>同 赤江シヤク</p> <p>同 雲樹寺釣柿</p> <p>同 森山モツク</p> <p>同 坂田ワタ</p> <p>同 玉造布</p> <p>同 津田笠</p> <p>同 坂浦ミノ</p> <p>同 日下セリ</p> <p>同 直江ソバキ</p> <p>同 久多見タバコ</p> <p>同 国富タバコ</p> <p>同 秋鹿トシ中</p>
--	--	--	--	---	-------------	---	---	--	--	---

安政五年八月再改、尤甲乙ハ所々之ヒイキニヨル、只名物覚ゆるまでニしるすのミ

佐久良屋間下板